



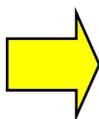
1年生で山行き可能な スギコンテナ苗の生産

山行き可能なスギコンテナ苗ができるまで

コンテナとは苗木を育成する容器です。



コンテナ容器 300ml 容または 150ml 容
(左: サイドスリット有、右: 同無)



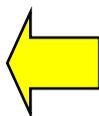
コンテナにココピート(培地)を詰め、種子を直播きします。



播種は9月上旬～10月下旬が適期



播種1年後、山行き可能な1年生苗
(苗高 35cm 以上、形状比 100 未満)



実生苗を間引き、1本仕立
(播種翌年の5～6月頃まで)

秋季(9月上旬～10月下旬)に種子をコンテナへ直播きし、緩効性肥料と液体肥料を生育ステージに応じて施用することで、人工的な環境調整(加温等)を行わなくても翌年の秋以降に山行き可能な1年生スギコンテナ苗を育成することが可能です。

裏面には、開発した1年生スギコンテナ苗の育苗成績等について詳しい紹介があります。



➤ 播種1年後、苗高35cm以上の苗木に成長。

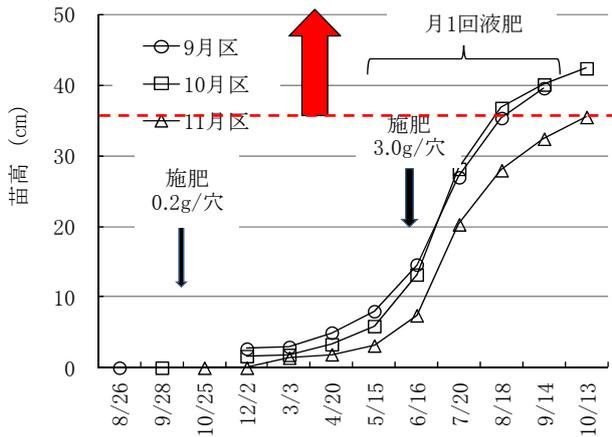


図1 直播きスギコンテナ苗の苗高成長

9月区、10月区播種は概ね1ヶ月以内に発芽、11月区は翌春までに発芽。施肥は緩効性肥料(N:P₂O₅:K₂O=16:9:12、溶出期間3~4ヶ月)と液体肥料(N:P₂O₅:K₂O=18:11:18)を施用。

➤ 播種1年後、形状比90以下の苗木に成長。

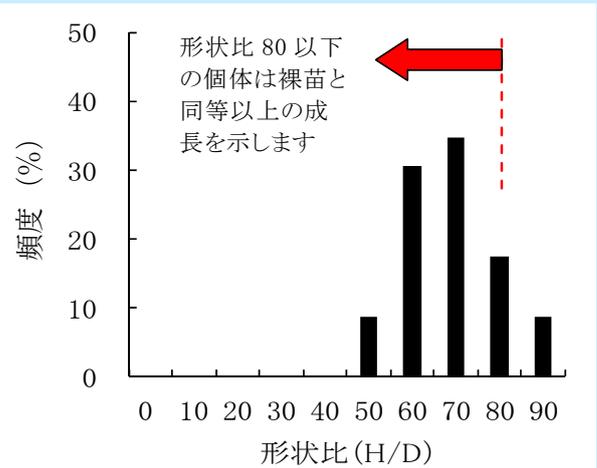


図2 直播きスギコンテナ苗(10月区)形状比の頻度分布

育苗密度 200 本/m² (JFA300、24 穴利用) の場合。

- 秋季に播種し、年内に苗高 2cm 程度まで育成。→翌春以降の初期成長が旺盛。
- 満 1 年生時、出荷規格(暫定値)に合致するコンテナ苗木(苗高 35cm 以上、形状比 100 未満等)の得苗率は 100%。

※育苗下の月平均気温(9月 25°C、10月 20°C、11月 13°C、12月 8°C、1月 5°C、2月 6°C、3月 9°C)。

播種から1年間の温量指数(Σ(各月平均気温-5°C))は 132° ~135°Cでした。

- 直播苗(1年生)と移植苗(2年生)の成長は同等。
- 培地量 150ml コンテナ苗(小型軽量)と同 300ml コンテナ苗の成長は同等。

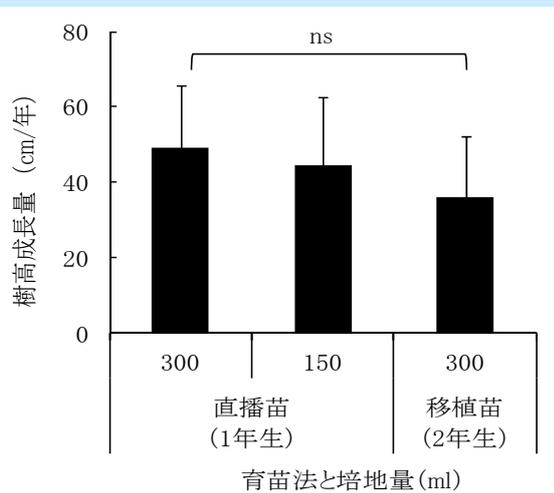


図3 直播苗(1年生)と移植苗(2年生)で育成したスギコンテナ苗の初期成長

ns は水準間に有意差がないことを示す。

- 直播苗(1年生)と移植苗(2年生)の植栽効率は同等。

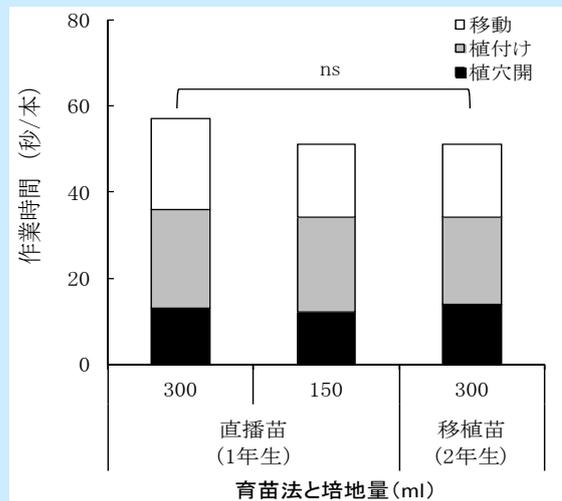


図4 直播苗(1年生)と移植苗(2年生)で育成したスギコンテナ苗の植栽効率

ns は水準間に有意差がないことを示す。

直播苗(1年生)は育苗期間が短縮され、育苗コスト低減と需給調整に有効です。

〈留意点〉

- ・静岡県浜松市浜北区における育苗結果です。
- ・秋以降の月平均気温が低い寒冷地では、播種時期を早める必要があります。

発行日：平成30年3月9日

発行：静岡県農林技術研究所森林・林業研究センター
〒434-0016 浜松市浜北区根堅2542-8
TEL (053) 583-3121 FAX (053) 583-1275